

## 図書館サービスのお知らせ



### スマートフォンで利用者カードを表示して本が借りられます

図書館ウェブサイトのマイページから、バーコードを表示して本を借りることができます。スマートフォンがあれば、利用者カードを携帯していなくても大丈夫です！

初めてマイページを利用される方は、図書館ホームページまたは、図書館内にあるOPACからご自分でパスワードの登録をお願いします。

なお、画面コピーの表示では、借りることはできません。



### 返却期限が近いこと、 興味のある分野の 新着図書 をメールで受け取れます



返却期限が近いこと、興味がある新着図書のお知らせを受けるには、図書館ウェブサイトのマイページで設定をお願いします。

返却期限については、返却日の前日、午前 8 時にメールを送信します。

また、好きなジャンルや作家を設定しておくことで、新しい本が入ったときのお知らせが届きます。ぜひご利用ください。



### 本、DVD、CDは 貸出延長・再貸出が

本やDVD、CDの貸出し期間は 15 日間ですが、返却期限内で予約が入っていない場合に限り、1 度だけ貸出の延長ができます。

延長はカウンターやマイページ、お電話での手続きをお願いします。手続きした日から 15 日間延長できます。また、返却の際に予約が入っていなければ、再度借りていただくこともできます。



春日井市図書館 電話：(0568)85-6800

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 5 丁目 44 番地 文化フォーラム春日井 3・4 階

開館時間：午前 9 時～午後 8 時 休館日：月曜日（休日の場合はその直後の休日でない日）



# おすすめ本紹介 山を歩く



野山を歩くのにちょうどいい季節がやってきました。土を踏みしめ、静かな木々の中を歩いていると、日常の些細なことを忘れ、心も身体もすっきりします。たまにはのんびりゆっくり、自然の中を歩いて外の景色を眺めてみませんか？そろそろ山に行きたいな！そんな気持ちにさせてくれる本を紹介します。

## 『八月の六日間』

北村 薫/著 KADOKAWA F/キタ/14

山を舞台にしたお話ですが、ハードボイルドな山岳小説ではありません。主人公は、仕事も私生活も行き詰った 40 歳目の「わたし」。友人に誘われたのをきっかけに、山に惹きこまれていきます。静かで壮大な山の中での一期一会の出会いや、黙々と歩きながら自分と向き合うたっぷりとした時間を通して、少しずつわたしの心がほぐれていく様子が伝わり、あたたかい気持ちになります。自然と人の優しさが染みる 1 冊です。



## 『グランマ・ゲイトウツのロングトレイル』

ベン・モンゴメリ/著 浜本 マヤ/訳 山と溪谷社 295.3/ク/21 (ふじとう)

アメリカの3大ロングトレイルの一つであるアパラチアン・トレイル(約 3300 キロ)を、女性としてはじめて歩き通したエマ・ゲイトウツの伝記物語です。

いくつもの山を越え藪をこぎ、雨の日も風の日も歩き続けた 67 歳のエマ。長く孤独な徒歩の旅の果てにあるのは…。ゴールがどんなに果てしなく遠くても、「一方の足をもう一方の足の前に出し続けるだけ」で、いい。一步踏み出す勇気をもらえる 1 冊です。



## 『山のごはん』

沢野 ひとし/著 KADOKAWA 915.6/ヤ/22

長年山に登ってきたイラストレーターの著者が、山への郷愁を食の思い出とともに綴ったエッセイ集。特別なものでなくても、自然の中で親しい仲間と食べるごはんは本当に美味しいですね。頂上を踏むことだけを目的とした若い時とは違い、自然への畏怖と慈しみを実感しながら歩く、著者の想いがにじみ出る味わい深い 1 冊です。おにぎりをお供に、のんびり山の上で読みたくなります。イラストも素敵です！





毎日の天気、気になりませんか？空模様を観察したり、天気予報をみたり…。暮らしに役立つ天気の本を紹介します。



### 『366日天気のはなし』

菊池 真以/文&写真 玄光社 451/サ/24 (高蔵寺)

1月1日～12月31日まで、366日分の天気の話がたくさん紹介されているとても素敵な本です。不思議な空や雲のかたち、季節ごとに咲く花、美しい風景の写真をみながら自然のすばらしさを感じることができます。ぜひあなたのお気に入りの1ページを探してみてください。

### 『天気のことわざは本当に当たるのか考えてみた』

猪熊 隆之/著 ベレ出版 451.2/テ/23

天気予報がなかった時代には、五感を使って天気を予想していました。五感を使って今後の天気を予想することを、観天望気といいます。この技術は天気のことわざとして残され、各地に伝えられてきました。よく聞くことわざに「暑さ寒さも彼岸まで」、おもしろいことわざに「猫が顔を洗うと雨」など…。興味深いことわざの数々、昔の人の観察力のすごさにつくづく感心させられます。



### 『体の不調がスーッと消える「天気痛さん」の本』

佐藤 純、片岡 信和/監修 扶桑社 498.4/カ/22

メディアでよく見聞きする天気痛。天気の変化で頭痛がしたり、古傷が痛んだりするほか、不眠やうつなど症状は多岐にわたります。こうした体調不良に悩まされている人は少なくないと思います。この本は、天気痛のメカニズムや予防、改善法を、わかりやすく丁寧に教えてくれる一冊です。



おすすめ本紹介

# コミックエッセイ



コミックエッセイは、堅苦しくない自由な形式で書かれているので読みやすく、旅行記や日常の何気ない出来事、介護記録など分野も幅広いです。文字ばかりの本を読むことが億劫になり読書から離れてしまった方が、また本に親しめるきっかけになるかもしれません。



## 『老いる自分をゆるしてあげる。』

上大岡 トメ/著 幻冬舎 491.3/オ/19 (中央)

老化ってなんだろう？という疑問に医学的に答えてくれます。医学的用語もイラストで説明してくれるので理解しやすいです。老化は劣化ではなく、人間に初めからプログラムされているものなのだそうです。この本に出てくるアンさんが、人間が老化するのは悪いことばかりじゃないのよと教えてくれます。読後は、なんだかスッキリした気分になります。

## 『親のトリセツ 健康以下、介護未滿』

カータン/著 KADOKAWA 916/オ/20 (ふじとう)

親の介護認定が確定する前の苦悩や戸惑いを暗くならずユーモアたっぷりに描いた作品です。内容は当事者にとっては共感することが多いのですが、声を出して笑ってしまうことも。認定介護福祉士さんが監修しているので、どこに相談するのか？困り事はどう受け止めればいいのか？など専門的なアドバイスもされています。



## 『ひとりたび 1年生』

たかぎ なおこ/著 KADOKAWA 291.09/ヒ/24

(グリーンパレス)

「一人で旅をするなんてちょっと怖いし不安だ」と思っている人も疑似一人旅体験ができそうです。行く先々での出会いや、その土地独特の習慣や、数人での旅行ではきっと体験できなかった様なことがあり、それが一人旅の醍醐味でもあるかもしれません。作者も初めは近いところから、そして少しずつ遠くへ旅立ちます。

失敗しながらも色々な苦労を乗り越えていき、自信を持てるようになる。人としての成長も促してくれる、一人旅って素敵だなと思えるかもしれません。

